

桐が谷通信

CHUBU GAKUIN UNIVERSITY
CHUBU GAKUIN COLLEGE

第 6 2 号 2 0 2 0 年 1 2 月 2 5 日

発行 中部学院大学 宗教委員会
中部学院大学短期大学部

〒501-3993
岐阜県関市桐ヶ丘二丁目1番地 TEL (0575) 24-2211

2020年12月21日 クリスマス礼拝

聖書：ルカによる福音書 2章15節 題：「その出来事を見ようではないか」

西島麻里子 (済美高等学校宗教主事)

今年西暦2020年も間もなく終わろうとしています。そして、来月からは2021年です。ところで皆さん、この西暦はクリスマスの出来事から始まっています。今年、イエス・キリストが誕生されてから2020年の時が経ちました。今年を振り返ると、何といっても新型コロナウイルスの流行により、今まで経験したことのない困ることばかりでした。世界の多くの国々で愛する人々を亡くし、幸せな生活を支える経済状況が悪化し、移動制限がある不自由な生活…数えれば切りがないほどの辛い出来事がありました。

実は、最初のクリスマスとなるイエス・キリストの誕生した時も、困ることばかりでした。当時の人々は現在の私たち同様に、それまで経験したこともない事をしなければならなかったのです。聖書には、「皇帝アウグストゥスから全領土の住民に、登録せよとの勅令が出た。(ルカ 2:1)」とあります。短い一文ですが、これはとても困る出来事の始まりです。何故なら、登録とは自分の生まれ故郷に戻り、ローマ帝国に重い税金を納めるということを意味するからです。言い換えると、ある時一方的にローマ皇帝から命令が出て、重い税金に苦しむ人生が待っているのだ！と言うことです。皆さん、とても残念なことです。いつも私たち人間は何か苦しんでいるように思います。最初のクリスマスは、弱い立場の人々を守る余裕が社会にない状況でした。登録のために旅している人々が多すぎて宿屋に泊まれず、イエス・キリストの両親は家畜小屋で出産しなければなりません。

人生ってこんなものなのでしょうか。いいえ、違います。聖書では夜通し野宿をして羊の番をしていた羊飼いたちが「主の天使が近づき、主の栄光が周りを照らしたので、彼らは非常に恐れた。天使は言った。“恐れるな。わたしは、民全体に与えられる大きな喜びを告げる。(中略)天使たちが離れて天に去ったとき、羊飼いたちは”さあ、ベツレヘムへ行こう。主が知らせてくださったその出来事を見ようではないか」と話し合った。そして急いで行

って、マリアとヨセフ、また飼い葉桶に寝かせてある乳飲み子を探し当てた。(ルカ 2:9～16)」とあります。ここでは、夜通し羊の番をするような苦勞を知っている人々が大丈夫？どうしているの？と訪ねて来てくれる、と聖書は語っています。

こんな状況で誰も余裕がない、人間同士の思いやりなんて無理だね、という時だからこそ、今まで私たちが苦しんできたことや、辛かった事が役立つのです。不安がどういうことかも知っている、孤独がどれほど痛い事かも私なら知っている、だって私には経験があるから…と、今まで困ったことや苦しんだことが人々のために役立つのです。皆さん、今年のクリスマスには、ぜひ皆さんのその苦しみや痛みを通して、身近な人々に「コロナで大変だけど、どう？大丈夫？」と声をかけてください。できるなら、オンラインで顔を見ながら「クリスマスおめでとう！」「新年おめでとう！」と励まし合ってください。お互いに、思いやりや優しさを持って、オンラインや電話でつながり合う時、これまでとは違う温かみのある人生が私たちに訪れます。辛い経験も悪くないな、苦しい経験が他の人の役に立つなんて、人生捨てたもんじゃないな、人生っておもしろいものだな～という経験をこのクリスマスにお互いにいたしましょう！



今年度点灯式

クリスマスって何でしょう

高木総平(本学院宗教総主事)

世界中の誰でもクリスマスが何の日か知っています。でもクリスマスという言葉の意味を知っている人は多くはないのです。「クリスマス」は「キリスト」+「マス」からなっています。マスは礼拝(ミサ)を表しています。以前にいた中学・高校の授業で、この説明をしたら、一人の生徒さんが「うちの学校は毎日がクリスマスや」と言いました。キリスト教主義の中学や高校では、形は様々ですが、毎日チャペルアワーがある場合が多いので、そういう言葉が出たのでしょう。正解です。

ではその中身の意味はどうでしょうか。以前から教えられることが多かった『クリスマスとイースターの祝い方』(石川和夫著)から紹介し、私なりに説明することにします。

1. 時の満ちる日

クリスマスはイスラエルの民を通してもたらされたました。この民は、紀元前6世紀に大国に滅ぼされてから離散の民として世界に散らばっていきました。彼らはどこに住んでも会堂を拠点に信仰を守り続けました。この会堂が、イエスの弟子たちにとって伝道の拠点となったのです。そしてキリスト教が広まるには、当時言語を中心としたギリシャ文化の存在と地中海を支配していたローマ帝国の存在が不可欠なものとしてあったのです。ローマの支配下での治安や交通網が弟子たちの活動に大きく寄与したのです。そういう時代の流れ、背景の中でイエスはキリスト(救い主)としてこの世界に誕生したのです。こういう聖句があります。「時が満ちると、その御子を女から、しかも律法の下に生まれた者としてお遣わしになりました」(ガラテヤ4:4)その時は、イエス誕生の2000年前から備えられていたのです。

2. 神の介入の日

クリスマスは、この世界に神が介入された日ということです。神は必要なら、いつでもこの世界に介入し、共にいてくださることを知らせてくださいます。有名なクリスマスに読まれる個所がこれです。「『見よ、おとめが身ごもって男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。』この名は、『神は我々と共におられる。』という意味である。』(マタイ1:23)愛なる神は、人間にとって絶望的な状況においても、希望を与えてくださる方、そのことがはっきりと示されたのがクリスマスなのです。

3. 愛が示された日

このような聖句があります。「神は、独り子を世にお遣わしになりました。その方によって、わたしたちが生きるよ

うになるためです。ここに、神の愛がわたしたちの内に示されました。』(Iヨハネ4:9)また「愛は多くの罪を覆うからである。』(Iペトロ4:8)この覆うとは、キャンセルだとこの本では説明されています。神は、すべての人の罪をキャンセルするために、罪のない独り子を十字架につけられたということです。またイエスはその生涯の歩みを通して、愛とは何かということを具体的に示されたということです。

4. 謙遜の日

この本にはこうあります。「『神は小さくなられた。ひとり残らず愛するために、神は最も小さくなられる。私たちが人を愛するために、小さくならなければならぬ。』もっとも大いなる存在の神が、小さな赤ちゃんの御姿でこの世界に來られたことから、真の謙遜の日とも言えるのです。

5. 小さいものが大切にされる日

わたしもクリスマス時の説教やスピーチでよく言いますし、去年の本学のクリスマス礼拝でも鈴木重正先生も繰り返し語られていました。それはこの本にもあるように真っ先にクリスマスのおとずれが知らされた羊飼いは、当時の社会で貧しく、差別されていた人たちだったということです。私たちが時に小さな存在を無視したり、忘れてしまいます。そのような私たちに、「小さいものが大切にされる」のがクリスマスだと強く訴えかけているのです。

6. プレゼントの日

一般ではサンタクロースとともにプレゼントがクリスマスの代表のような存在です。ヨハネ3:16にこうあります。「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。」要するにプレゼントとして、イエスを神がお遣わしになったということです。その最も大切な生命をくださったということです。この本にはこうあります。「クリスマスはプレゼントの日である。もらう日ではなく、あげる日なのである。」

これらがクリスマスの意味です。皆さんどう受け止めて、今年のクリスマスを迎えますでしょうか。



教会カット集より

イギリスでのクリスマス

Dalrymple 規子(幼児教育学科 教授)

今年は、コロナ感染拡大で世界中が大変なことになっています。ウィズコロナでの、新しい生活を余儀なくされ、それは、このクリスマスでも同様です。私が、2000年から2005年まで滞在していたイギリスは、キリスト教の国であるから余計に、国民一人ひとりが、この大変な時期にどうやってクリスマスを過ごすか、本当に頭を悩ませている事だと思います。それでも、元々家族や親戚で過ごす穏やかな時期でもあるので、きっと、それぞれの家庭で、いつものように親戚中が集まることは難しくても、家族でこのクリスマスを祝っている事でしょう。

では、普段はイギリスではどんなクリスマスを過ごしているのでしょうか。私がいた頃に比べて、もう10年



街頭で売られているクリスマスツリー

以上たっていますから、もしかしたら少しは変わっているかと、ちょっと調べてみましたが、どうやら同じようでした。私が初めてイギリスのクリスマスを体験したのは、イギリスで学生をしていた時です。きつとも賑やかな日々なんだろうとイメージをしていました。クリスマスに向かうにつれて、街はイルミネーションがにぎやかになり、多くのプレゼントを買った買い物客で混雑し、歩道には、生のクリスマスツリーを所狭しと販売し、お肉屋さんの前には、ターキーやチキンを丸ごと売っていました。その雰囲気、私は当日はどんなに素敵なんだろうとワクワクしていました。ところが、クリスマス近くに学生仲間から、クリスマス当日の25日とボクシングデイの26日は、公共交通機関がすべてストップしてしまうこと、街はどこも閉じてしまうことを聞き、慌ててしまいました。そして当日、本当に静かで、道を走っている車の音などほとんど聞こえなく皆はどこへ行ってしまったのだらうと思うほどでした。

次の年は、学生仲間がご自宅でのクリスマスに招いて下さり、そのまた次の年からは、教会仲間のご家庭が招いて下さり、イギリス本場のクリスマス当日を体

験することができました。リビングルームに飾られたクリスマスツリーの足元には、多くのクリスマスプレゼントが置かれ、そこには家族全員(+私の分まで!)のプレゼントがありました。壁には、ご友人がご親戚から送られてきたクリスマスカードが紐でつながって飾られていて、お食事前にはクラッカー(日本のとは違うのです!)を楽しみました。そして、クリスマスディナーと呼ばれるランチでは、丸ごとチキンをお父さんが丁寧に切って下さり、ジャガイモやニンジンやグリーンピースと共に、贅沢にお腹いっぱい食べ、クリスマスプディングというフルーツたっぷりのケーキを頂きました。そしてお腹いっぱい後は、家族みんなで静かな街に散歩に出かけました。今思い出しても、心が穏やかになる時間でした。日本で言うお正月の時の感じでしょうか。イギリスはキリスト教の国でもあるので、国全体がそうやって、イエスさまの誕生を静かに穏やかにお祝いしているのでしょうか。

こんな時期だからこそ、大切にしたい時間ですね。Happy Christmas!!



クリスマスツリーの足元には、プレゼントがいっぱい

「クリスマスに寄せて」

杉山祐子(幼児教育学科 教授)

昨年、私は中国山東省青州市でクリスマスを迎えました。青州は、三国志の曹操が自軍「青州軍」を組織し治めた地です。その地の幼児教育の視察でした。中国では日本の幼稚園に当たる「幼児園」が主です。人口からしても、街のいたるところに写真のような「幼児園」がありました。

滞在中、クリスマスイヴにもかかわらず、街にはクリスマスの音楽はもとより、オブジェやイルミネーションは一切ありませんでした。日本と比べると、不思議に感じられました。街を歩いていると、人の少ない静かな通りに、ひととき明るくにぎやかな場所がありました。そこはプロテスタントの教会でした(写真)。礼拝堂は満席です。前庭は人で溢れていました。現地ガイドにこの様子について尋ねると、「皆、クリスチャンですよ。私の家族もそうです。今年のクリスマスは日本の皆さんと一緒に過ごすことができうれしいです。」とってくれました。中国の静かな街のクリスマスに接する機会となり感動しました。



幼児園(青州市)

さて、クリスマスに聴いていただきたいバロック音楽を紹介いたします。本学にはパイプオルガンやチェンバロ(写真)があります。それらの楽器とゆかりが深い音楽はバロック音楽です。バロックは、絶対王政の時代に花開いた芸術です。フランスではヴェルサイユ宮殿に代表されるルイ王朝時代に当たります。150年のバロック時代の中で、後期バロックのバッハやヘンデルは有名ですが、中期バロックも魅力的です。フランスの作曲家マルカントワーヌ・シャルパンティエ(1643-1704)は、宮廷で権力を振るったジャン・バティスト・リュリ(1632-1687)と同世代ですが、王侯貴族に媚びることなく、教会での楽長を全うして民衆



クリスマスイヴの教会(青州市)

のための音楽を多く作曲しました。クリスマスには、彼の作品から「主の御降誕のカンティクム」や「真夜中のミサ」がお勧めです。「主の御降誕のカンティクム」は、本学附属幼稚園の伝統である聖誕劇の原点とも言えるストーリー仕立ての美しいミサ曲です。羊飼いや天使が登場し、救い主に会うためにベツレヘムに行進して行きます。厩のワラにくるまれた救い主を皆で覗き込んだ時、ため息は休符で、人々の表情は静かで深い悲しみを湛えた調べで表現されています。「真夜中のミサ」は、巷のノエルも盛り込んだ祈りの楽曲です。作曲家に限らず、古楽器の響きもバロック音楽の魅力です。贅沢で華やかな面と素朴で繊細な面を併せ持つバロック音楽の世界に、クリスマスシーズンをきっかけに親しんでいただくと幸いです。



チェンバロ(各務原キャンパス)